

東南アジア

Visual Documentary Project 2015 入選作品

映画

+ 東南アジア映画作品選

上映会

京都大学東南アジア研究所が展開する「Visual Documentary Project (VDP)」の、2015年「越境する東南アジア」入選作品5編を、一般向けに公開上映します。同時に、東南アジア映画作品選として、ティームーニン監督／アウンミン脚本「The Monk」、リティ・パン監督「消えた画」を上映します。

本上映会は、2016年10月13日-16日開催の「京都国際映画祭2016」との連携映画祭として開催されるものです。



上映日：平成28年10月16日(日) 13:00~19:00 (開場12:30)

会場：京都大学稲盛財団記念館 3階大会議室

対象：一般

入場料：無料、予約不要

URL：京都大学東南アジア研究所 <http://www.cseas.kyoto-u.ac.jp> 京都国際映画祭 <http://kiff.kyoto.jp>

主催：京都大学東南アジア研究所

連携：京都国際映画祭2016

協力：国際交流基金 フェスティバル/トーキョー Negativ Film Productions 太秦株式会社 京都国際インディーズ映画祭

「我が政治人生」(ミャンマー) (20分)

監督: Soe Akhar Htun

ユー・ティン・ソーは、若かりし頃にアウンサンスーチーのボディガードとして自らの青春を捧げ、政治活動に勤しんできた。長い間苦勞をかけた妻と家族のために、活動から身を引くことを決断するが、それでも地元の人からの相談事は断れず、法律相談にのってしまうのであった。

撮影地: ミャンマー

「2人のマイケル」(タイ) (29分)

監督: Kunawut Boonreak

タイ北部にあるミャンマーとの国境の町メーソットとウンピナム難民キャンプを舞台に、2人のマイケルに焦点を当てる。同じロヒンギャ*でありながらも、経済的な状況も育ってきた環境も異なる2人は、それぞれ生活に苦勞しながらも、タイとミャンマーどちらにも属さないロヒンギャとしての自らのアイデンティティを保とうと奮闘する。

撮影地: ミャンマー

*ミャンマーのヤカイン州に住む人々の名称

「儂さ」(マレーシア) (9分)

監督: Bebbra Mailin

マレーシアのサバ州に住むインドネシア人家族の生活を、厳しい生活の中でも、歌手になるという夢を持ち続ける12歳の少女ニルワナの視点から描く。

撮影地: マレーシア

「私の足」(ミャンマー) (16分)

監督: Khon Soe Moe Aung

ミャンマーのカーヤ州では、60年以上に渡り異なる民族の武装勢力が独立を求めてミャンマー軍と戦ってきた。敵味方の区別なく、年間約100足の義足を退役軍人たちに提供している退役軍人による義足の作業場に焦点を当てる。

撮影地: ミャンマー

「ジウおじいちゃんに捧ぐ」(ベトナム) (23分)

監督: Hien Anh Nguyen

ハノイ市内の騒がしい路地の小さな一角、質素な家で素朴な生活を営む祖父デューの日常生活を描く。ジウは1960年代半ばに国連難民高等弁務官事務所フリーランスの通訳者として働いていた野心家であり、懸命に好きな本を翻訳してきたが、その本を出版しようと試みたことは一度もなかった。

撮影地: ベトナム

「The Monk」(チェコ、ミャンマー) (91分)

青年ザワナーはある日、小さな村の僧院に忍びこみ、僧侶として暮らし始める。彼は日々の生活に疑問を抱きながらも、年老いた住職に従いながら生きていた。経済的に苦しくなり、他の僧侶たちが僧院を離れていくなか、住職が病にかかってしまう。誰かが住職、ひいてはその村全体を世話していかなくてはならない。ザワナーは自身が立ち上がらなければならないと、決意を固めるのだった――。

監督: ティーモーナイン

脚本: アウンミン

撮影: ティンウインナイン

編集: ゴーウイントエー

録音: サイコンカン

音楽: ヤン・リフトル

出演: チョーニートウ(見習い僧ザワナー)、ハンナーウェーニェイン(マラー)、ティンスエーミン(ウーダーマ僧院長)、モーサン(ヤワタ僧正)

PRODUCED BY FAMU (Vít Janeček)

「消えた画(え) クメール・ルージュの真実」

(カンボジア、フランス) (95分)

1975～1979年 カンボジア クメール・ルージュによる虐殺の記憶――色鮮やかなカンボジアの文化が、クメール・ルージュによる“黒”と紅い旗とスカーフだけの世界に突然、一変する。人形と交互に現れるプロバガンダ映像に登場するボル・ポトはいつも笑顔だ。ベトナム戦争を背景とした冷戦下の大国の対立に端を発した、クメール・ルージュによる悲劇。なぜ、陰惨な歴史は繰り返されるのだろうか。リティ・パンとフランス人作家、クリストフ・パタイユによって書かれたことばが、犯罪と歴史の記憶を暴いていく。

脚本・監督: リティ・パン*

製作: カトリーヌ・デュサール

テキスト: クリストフ・パタイユ

ナレーション: ランダル・ドゥー

音楽: マルク・マーデル

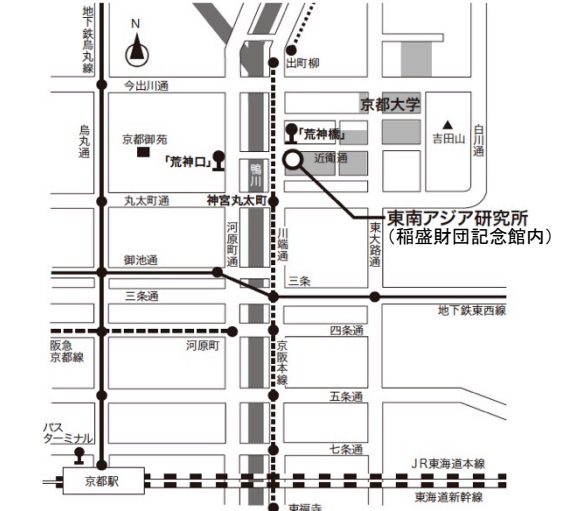
人形制作: サリス・マン

編集: リティ・パニユ、マリ=クリスティエヌ・ルージュリ

共同製作: GDP(カトリーヌ・デュサール・プロダクション)、アルテ・フランス、ボファナ・プロダクション

*「パニユ」とする表記もありますが、本会では「パン」としております。

| | 開始時刻 | 終了時刻 |
|----------------------|-------|-------|
| 開会挨拶 | 13:00 | 13:15 |
| 2人のマイケル | 13:15 | 13:35 |
| 切り替え | 13:35 | 13:36 |
| ジウおじいちゃんへ捧ぐ | 13:36 | 14:05 |
| 切り替え | 14:05 | 14:06 |
| 儂さ | 14:06 | 14:15 |
| 休憩 | 15:00 | 14:20 |
| 私の足 | 14:20 | 14:36 |
| 切り替え | 14:36 | 14:37 |
| 我が政治人生 | 14:37 | 15:00 |
| 京大研究者による解説 | 15:00 | 15:15 |
| 休憩 | 15:15 | 15:25 |
| The Monk | 15:25 | 16:56 |
| 休憩 | 16:56 | 17:06 |
| 消えた画(え) クメール・ルージュの真実 | 17:06 | 18:41 |
| 京大研究者による解説 | 18:41 | 19:00 |



稲盛財団記念館
 ・京阪京都線「神宮丸太町駅」⑤出口より北に徒歩2分
 ・京都市バス「荒神口」バス停より東に徒歩2分(荒神橋東詰)
 ・京都バス「荒神橋」バス停前